

「地域に根差し、地域を支える。」 大切な命と財産を守る建設業の役割

異常気象によるゲリラ豪雨など突然襲ってくる自然災害や、佐賀県で初めて発生が確認された鳥インフルエンザなど、「県民の安全・安心」はいつどんな形で脅かされるかわかりません。

私達の暮らしや地域を守っていくためには、その土地に住む人々による「地域に根差した防災・減災活動」や、「日ごろからのつながり」が必要不可欠です。佐賀県建設業協会の会長・岸本剛氏に、防災・減災・災害復旧、そして今回初めて経験した鳥インフルエンザ防疫活動など、県民の暮らしを支える建設業の社会的役割について伺いました。

インタビュアーはFM佐賀アナウンサーの飯地紀美子さんです。

✓ 災害時、救援ルート確保は使命

飯地 建設業といえば学校や工場、個人住宅の建築、橋や道路といった公共工事を請け負っているイメージを持っている人がほとんどではないでしょうか。一方で、防災・減災の担い手として建設業界が果たす役割はほとんど広がりがあります。どのようにかわつていきますか。

岸本 自然の猛威の前で、道路や橋など社会的なインフラが壊れることを防ぐことが第一の役割。災害発生時、孤立した災害現場に救援車両や救援物資が向かえるように、いち早く道路などや復旧作業をするのも、私たちの大きな役割です。特に地元の建設業者は、この堤防が危険だとか地域のことを熟知していますから、防災・減災、災害復旧にかかわるのには自然なことだろうと思います。いざという時に、重機や人材をすぐに手当てできるのも、地元建設業者の強みですね。

飯地 建設業＝防災・減災業と言っても過言ではないですね。

岸本 佐賀県は災害が少ない地域だといわれていますが、最近では異常気象でゲリラ豪雨なども発生し、いつどんな災害が起きるかわかりません。そういう意味でも、建設業界が防災・減災、災害復旧の役割を担う比重は高くなっています。佐賀県の建設業者は地域に育ち、育たれてきたという感謝の気持ちから、県民の皆様が安全に安心して暮らせるように努力していくのが、私たちの存在意義でもあると思います。

飯地 地域を守る使命感と責任感、郷土愛が伝



平成26年5月に実施された佐賀県防災訓練に参加



エフエム佐賀アナウンサー
飯地 紀美子

プロフィール／いいきみこ
同局パーソナリティのほか、番組制作も兼務。
佐賀県防災会議委員。

私たちは、明日の安全・安心をつくる。

✓ 形になって後世に残す喜び

飯地 建設業界の役割も広がり、その存在意義もますます大きくなっていくと感じますが、これからの建設業界を考えていく上で、今の課題はなんですか。

岸本 技術者・技能者には50歳以上が多く、高齢化が進み、若者が非常に少ない現状があります。この業界は一人前になるには10年はかかります。技術や技能は次の世代に伝承されなくてはなりません。それができなくなる危機に直面しています。できるだけ早く若い人を入れて、次の時代を担う人材を育てることが直近の課題です。

飯地 会長が考える建設業の魅力とは何でしょうか。

岸本 建設業はものづくりの世界です。例えば、離島をつなぐ橋や小学校の建設など、自分がつく

✓ 鳥インフルエンザ拡大防止にも一役

飯地 今年1月、有田町で発生した鳥インフルエンザ。そのときの建設業界の活躍は、めざましいものでした。

岸本 初めての経験でしたから、手探り状態でしたね。1つずつ県と協力できる部分を確認していき、町外や県外にも被害が及んでは大事ですから、危機感が漂っていました。殺処分が決まるとは、時間との戦いです。指定の埋却場所から水が出るという問題も発生し、新たに指定された場所を掘るなど、夜を徹しての作業となりました。重機を動かせるのは建設業者だけです。自分たちがやらなくてはならない使命と緊張感がありました。

当初は有田町と近隣の支部が作業に当たっていましたが、対岸の火事ではないと佐賀支部などからも志願してくれました。うれしかったですね。建設業界からのべ1,500人が応援に行きました。今は、県民の皆様役に立てたと満足感でいっぱい입니다。



一般社団法人 佐賀県建設業協会 会長 岸本 剛



プロフィール／きしもと つよし
明治大学法学部卒。1988年岸本組常務取締役、1996年代表取締役社長。
2000年唐津建設業協会会長、2004年佐賀県建設業協会会長。

「地域のため、早く収束させたい」

建設業界も鳥インフルエンザの防疫に尽力

1月17日、西松浦郡有田町の養鶏農家の鶏から、佐賀県で初めて鳥インフルエンザが発生。遺伝子の検査の結果、大量死につながるH5型の高病原性ウイルスを確認した。24時間以内にこの養鶏農家が2カ所の養鶏場で飼育する約7万3,000羽を殺処分。並行して殺処分された鶏の埋却、養鶏場の消毒を行い、発生確認から72時間以内に「防疫措置」を終えた。

ウイルスのまん延防止のために、発生地から3キロ圏内の養鶏場で卵や鶏の移動制限、3～10キロ圏内では圏外への搬出を制限。道路には県内に14カ所、長崎県内に4カ所の消毒ポイントを設置した。作業員が畜産車両には直接消毒を吹きかけ、一般車両は消毒マットの上を通過させた。2月5日、感染拡大がないことを確認し、11日発生確認から24日間続いた防疫対応を終了し、終息した。

県建設業協会は、県の派遣要請を受けて、発生後すぐに町内や近隣の建設会社を中心に運転手や重機を投入して埋却作業に協力。14カ所の消毒ポイントでも白い防護服を身に付けて消毒。冬の寒さの中、夜を徹しての作業を続け「防疫」に尽力した。



写真提供 (株)下建設(有田町)

取材協力：一般社団法人 佐賀県建設業協会 佐賀県建設産業団体連合会

未来を創る。安心、安全な明日を創る。

みんなの役に立つ
「目に見えるものづくり」が誇りです



毎日が
「現場で知る楽しさ」と
「新たな発見」の連続です。



昔からの夢が叶った幸せと
お客様の笑顔が私の活力です。



株式会社電開社
西岡 海(電気工事 22才)

西津土木工業株式会社
牧原 美樹(設計 19才)

株式会社山崎建設
市丸 竜之介(土木 19才)